

研究テーマ：WRITING を意識した並べ替え問題の指導の工夫

所属 高知県立岡豊高等学校

氏名 澤村 幸子

R G S H 1

【アクション・リサーチⅠ・Ⅱ】

1. 研究の背景

1 学年普通科10クラスの内、3クラスの英語Ⅰ・OCIを担当しているが、3クラスともクラス内の能力差がかなりあり、英語に対して積極的に取り組み、英検準2級を今年度中に取得したいという生徒もいれば、中学校1年の内容も十分理解できていない生徒もかなりいる。そのような状況であるが、全体的には、英語を理解したいという意欲は感じられる。しかし、4月当初のアンケートや課題テスト・学習支援テストの結果などからみると、4技能の内、**Writing** が劣っている。その中で特に並べ替えの問題が苦手だという生徒が多いので、研究テーマを「**WRITING** を意識した並べ替え問題の指導の工夫」と設定した。

2. サーチ・クエスチョン

並べ替えの問題を理解させるにはどのように指導したらよいか？

並べ替え問題を WRITING (自由英作文)につなげる指導法は？
--

3. 予備調査

(ア) 授業観察の結果

- ① 自分がホーム主任をしている1年2ホームを選んだ。このクラスは課題テスト・学習支援テストとも、3クラス中1番低い、生徒は明るく、活発で、私語も多いが全体的にやる気があり比較的指導しやすいクラスである。教科書の読みの声も大きく、OCIの活動も活発で、ALTも授業はしやすいという感想を持っている。
- ② 1年2H アンケート結果（4月当初）
 - (1) 英語が 好き 4名、 どちらかといえば好き 8名
どちらかといえば嫌い 19名、 嫌い 9名
 - (2) 英検取得状況 5級 3名、4級 5名、3級 1名
取得希望（今年度） 4級 2名、3級 6名、 準2級 1名
 - (3) 中学時の学習状況
 - ・ テストの時だけ 24名、・宿題があった時 5名、
 - ・ 毎日1～2時間 3名、
 - ・ 授業がある時 0. 5～1時間 2名
1時間 2名
2時間 2名
 - (4) 嫌いな理由
 - ・ 英語自体が難しい、苦手だから、 ・ 英語は楽しくない、わからない
 - ・ 勉強する必要はない ・ 外国に行きたい時に覚えればいい
 - ・ できないから、理解できないから ・ 英作文がわからないから
 - ・ 文の構成が難しい ・ テストで良い点が取れないから
 - ・ 単語を覚えるのが苦手 ・ 覚えることが多い

(5) 中学校の英語の授業で難しいと感じたところ

・ 長文 ・ 関係代名詞 ・ 英作文 ・ 文の並べ方 ・ リスニングが早い

③ 英語力を示すデータ

・ 4/8実施 課題テスト平均点 52.5点

(1H・・・56.1点 5H・・・57.5点)

・ 4/12実施 学習支援テスト平均点 40.5点

(県・・・45.3点、 校内・・・43.8点、

1H・・・45.3点、 5H・・・43.4点)

4. 仮説の設定

(1) 語順 (S、V、O、C) を理解すれば並べ替えの問題も容易に解けるのではないか。

(2) 音読を導入すれば語順パターンが理解できるのではないか。

(3) 自分のことを表現する文章であれば、語順パターンの理解が一層増すのではないか。

5. 計画の実践

(1) 1学期は教科書 **NEW STREAM I** (増進堂) で第4文型まで学習することになっているので、文型の問題に絞り問題を設定することにした。教科書の本文学習時に **S、V、O、C** の分けをし、第何文型かを確認し理解につなげるようにした。更に練習問題で理解度を確認する。

(2) 仮説(1)だけでは十分理解できていなかったのも、音読を導入し、発音することによって、耳での定着を図り理解につなげるようにした。

・ カードにフレーズを書き磁石で黒板に貼り、カードの組み合わせにより、可能な限り英文を考えさせる。

(3) 構文の説明後の練習問題で、身近な例を取り上げ生徒に提示した。その後、自分に関した文章を作らせた。

6. 実践の結果

(1) 最初の内は、まったく違う部分を指摘していた生徒もいたが、毎時間やっていくうちに徐々に理解できるようになっていった。しかし、プリントの練習問題では第4文型・第5文型の理解度が良くなかった。

(2) カードの並べ替えはゲーム感覚でできたので、生徒も嫌がらずに答えようとしていた。2度目の練習問題は今までにやっていたことの復習であったが、ほぼ9割の出来であった。

(3) 生徒たちは自分や友人のことを表現することにより、記憶に残る文章作りができたと思われた。

7. 結果の検証

1学期の評価 1H・・・64.0点、2H・・・65.6点、5H・・・63.0点

2学期の評価 1H・・・54.5点、2H・・・57.4点、5H・・・57.3点

8. 成果と今後の課題

繰り返し(復習)と楽しみながらという2つのことを柱にした結果、英語に興味を持つ生徒が増えたように思われる。1学期の評価も3クラスの中でトップとなった。(評価には提出物・授業態度等も含まれているが)

しかしながら、英語が苦手だと感想を持つ生徒が相変わらず多く(12月)、家庭学習も充分できていない状況である。1年生は全クラス進度が共通であることから、独自のことを行いにくい、先を見通した計画を立て、継続した実践によって生徒たちが少しでも「英語がわかった」と思えるよう取り組んでいかなければならないと思っている。